



表彰

「いーたいけんアワード」奨励賞を受賞 2025.01.17

1月17日、文部科学省の令和6年度「いーたいけんアワード」(青少年の体験活動推進企業表彰)で奨励賞を受賞しました。2007年から地元児童を対象として続けてきた環境教育が、青少年の体験活動推進に貢献したと評価されました。



6年連続 健康経営優良法人2025に認定 2025.03.10

経済産業省の「健康経営優良法人2025」に6年連続で認定、さらにネクストブライツ1000にも選出されました。今後も、従業員の健康管理を戦略的に推進する取り組みを進めてまいります。



滋賀県で7企業目 「プラチナくるみん」認定 2025.02.14

2013年度「くるみん」認定に続き、今年度、滋賀県で7社目であり、技術サービス業では滋賀県内初となる「プラチナくるみん」認定を受けました。男性の育休取得促進や女性活躍を支援するセミナー開催などの取り組みが評価され、2月14日付で認定、3月24日に滋賀労働局にて認定通知書交付式が行われました。



- ・環境測定分析功労者として表彰されました
- ・中日本ハイウェイ・エンジニアリング安全活動表彰
- ・「びわ湖100地点環境DNA調査」感謝状を受領

社会貢献

市民バス「あかこんバス」寄贈 2025.03.27

3月27日、創業70周年を記念して近江八幡市に「あかこんバス」を寄贈し、小西近江八幡市長から感謝状を受領しました。日吉は2009年の運行開始時、2016年の車両更新時にも寄付をし、今回3回目となります。今回の寄贈を通じて、これからも地域の皆さんに愛される移動手段として活躍を期待しています。



高校生インターンシップ受け入れ

高校生インターンシップ

瀬田工業高校より1名、八幡工業高校より2名、八幡商業高校より2名の計5名のインターンシップを受け入れました。



特殊車両のご紹介

イラスト付きごみ収集車

今年も、地元の小学4年生が環境をテーマにした絵をデザインしたごみ収集車を導入、3月10日にお披露目会が行われました。1990年に仕事に対する偏見をなくすことを目的に開始した環境学習は今回で35年、イラスト付きごみ収集車は26台目になりました。この取り組みを通じて、環境問題への関心を高めてもらうきっかけになればと願っています。



新車両の紹介



パッカー車4台



ダンプトラック



搭載型トラッククレーン



- 用紙: 琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量: 110.7g/部

Discovery



Spring 2025 vol. 30
株式会社日吉
info@hiyoshi-es.co.jp
www.hiyoshi-es.co.jp



本社: 〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店 / 横浜支店 / 大阪支店

70周年を迎えて

新たな挑戦への出発

このたび、おかげさまで2025年3月に創業70周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたりご支援を賜りました地域社会・お取引先の皆さま、関係各位、そして当社の歩みを支えてきた全ての方々のおかげであり、心より感謝申し上げます。創業以来、当社の歩みを築いてこられた歴代経営陣や諸先輩方のご尽力、そして受け継がれてきた想いに改めて敬意を表するとともに、その志を未来へとつなぎ、さらなる発展を目指してまいります。

当社は、「社会立社・技術立社」の社是のもと、法令順守を徹底し、技術の研鑽に努めながら、社会課題の解決に真摯に取り組んでまいりました。この70年の歴史は、皆さまから賜った信用、信頼の証であると同時に、これからの未来に向けた新たな責任であると受け止めております。

今後は、既存事業の強みを活かしつつ、サーキュラーエコノミー(循環型経済)の視点を重視した新たな事業

領域への挑戦を進めてまいります。また、従来の枠にとらわれず、次世代を担う革新的な新規事業の創出を通じて、持続的な成長とさらなる企業価値の向上に努めてまいります。加えて、ダイバーシティ&インクルージョンの推進にも積極的に取り組み、多様な人材がいきいきと活躍できる職場環境の整備を進めることで、従業員の成長と企業の発展を両立させ、100年企業を目指す歩みを加速してまいります。

引き続き、皆さまのご期待にお応えできる企業であり続けられるよう、より一層の努力を重ねてまいりますので、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 正



海外貢献

ABK AOTS同窓会タミルナドゥセンター創立50周年記念式典 2025.03.08

3月8日に、ABK AOTS同窓会タミルナドゥセンター(以下「本センター」)の創立50周年記念式典がインド・チェンナイ市で開催されました。当社からは鈴木社長と村田相談役ほか計4名が出席し、200名を超える関係者とともに式典に参加しました。

当社と本センターとの交流は、1994年にランガナタン名誉会長が当社を訪問されたことから始まります。それ以来、本センター設立20周年にインド・スピーチコンテストを開始し、その後もインド・インターンシップや環境大賞の創設、日吉インドア設立など、30年に渡り数々の国際貢献活動を共に展開、これまでに265名のインド研修生を受け入れてきました。

式典の後には、関係者との懇談の場もあり、これまでの活動への感謝の言葉をいただく中で、当社の継続的な取り組みの意義を改めて実感する機会となりました。



70周年記念
座談会

「自分の仕事が社会の役に立つ」その実感が、次の一歩を生む。 感謝と信頼を育みながら、未来へ続くこれからの日吉へ。

株式会社日吉は、2025年3月に創業70周年を迎えました。この記念すべき節目にあたり、会社の歩みを振り返り、今後の方向性を見つめ直す機会として、社長と社員による座談会を開催しました。各部門の社員が集い、経験や想い、これからの展望について語り合った様子をお届けします。

歴史を受け継ぎ、今を築く。 会社のこと、仕事のこと。

鈴木 創業70年で私が5代目の社長になります。創業はごみ、し尿収集から始まり、浄化槽や排水処理、分析、薬品の取り扱い、保全業務へと事業を拡げてきました。これら現在の基幹業務も当時は先進的な取り組みばかりで、先代たちが道を切り拓いてきたからこそ今の私たちがいます。今日は、これからの30年を担い、100周年への道を作っていく若手社員の皆さんに集まってもらいました。ぜひ、未来の日吉について自由に意見を聞かせてください。

田中 東近江市にある衛生センターで所長をしています。現場で学んだのは、いろいろな問題が起こる中で「根本にある課題は何か」を冷静に見極めること。しんどい時期もありましたが、人の温かさ、特に先輩の優しさに支えられてきたなと感じています。

横井 私は分析の仕事をしています。まわりの方が仕事に関わるニュースなどを適宜チェックされていて、世の中の動きと自分の業務をしっかりと繋げて考えている方が多いなと感じます。

鈴木 「世の中の兆しを見つめて、流れに備える」は会社のベースにある考えですね。社是を意識して、日々の行動に移してくれているのは嬉しいですね。

林 私は入社後、グループ会社の湘南分析センターに1年間研修に行きました。正直、最初は「なぜ私だけ？」と思ったのですが、始まってみるとすごく濃い時間で。薬剤などの専門知識を活かして営業ができています。この経験のおかげだと思っています。

上森 私は文系出身で環境事業の知識がないので、入社してすぐに社内の部署を一通りまわるJOBローテーション研修を受けられたのがすごく良かったです。「こんなことまでやってるの？」と驚くような業務も多くて、会社への理解が一気に深



施設管理部 田中 駿
2011年入社。施設管理部1課水処理係主任。
し尿・汚泥再生処理施設で所長を務めている。

まりました。研修や教育の機会がしっかりあるのはありがたいです。

吉原 私は大学時代からラボでの実験が好きで、日吉を志望しました。大学では基本的な原理を学ぶのが中心でしたが、当然、仕事となると間違いが許されない緊張感があります。部署内では年代を問わず自分の意見を出しやすく、風通しがいいなと感じています。

100周年への道をつなぐ ために、いま私たちが 感じていること。

林 営業をしている私としては、どれだけ



分析検査部 横井 彩乃
2022年入社。分析検査部分析検査課無機分析係で水質分析に携わっている。

デジタル化が進んでも、やっぱり現場では人と人の信頼関係が大事だと感じます。お客さまはもちろん、社内の分析部門に相談したり、施設管理の担当者と連携したりしながら、会社全体の価値をしっかりと伝えられるようになりたいです。

鈴木 今の役員は人手が足りない時代に入社して、ある意味「何もかも経験してきた」からこそ会社全体が俯瞰的に見えている部分もあると思います。でもこれからは、そうした経験をしていない人がマネジメントを担うようになる。だからこそ、部署が違っても自然と相談できる関係性が生まれるような会社にしていきたいですね。

田中 私はし尿処理施設の維持管理を担当していますが、汲み取り式トイレや浄化槽はこれから徐々に減る設備です。だからこそ、これから私たちは何をすべきなのかを改めて考えないといけない。日本ではインフラが整っていますが、世界に目を向けると、まだまだ衛生環境が不十分な地域も多いです。そういった場所に私たちが培ってきた技術や経験を役立てることができれば、新しい社会貢献になると思います。

横井 私は分析検査部で仕事をしているので直接お客さまと話すことは少ないのですが、自分が調査した分析結果がお客さまにどう届き、どう役立っているのかにはすごく



薬品部 林 恭輔
2016年入社。薬品部薬品課で無機薬品などの工業薬品の営業販売に携わっている。

く関心があります。その“先”まで説明できるようにするために、もっと勉強して必要な知識や資格を身につけたいです。

吉原 昨今の国際情勢や持続可能な発展といった観点から、廃棄されるはずだったものを再び資源として使う「サーキュラーエコノミー」の考え方がこれから日本でもっと重要視されていくと思います。品質を保ちながら再利用するために、私たちがやっている計測や分析の仕事が活かされれば、当社の発展にも繋がるのではないのでしょうか。

上森 新しいことを始めるには、やはり人がいないといけません。私は採用にも関わっているのですが、求職者から選んでもらえる会社になるために、更に働きやすい職場に変えていく必要はあるなと感じています。

やりがいと感謝がめぐる会社に。 働くなかで生まれる想いを 大切にしたい。

吉原 私は、「自分のやったことが誰かの役に立っている」と実感できるときに働きがいを感じます。たとえば水質分析の結果を見て、「この数値が出るということは、あの処理がうまく行っていないのでは？」と予測し、原因追究に役立つ提案ができたときは、分析者冥利に尽きます。

上森 私は総務部なので、社員の皆さんがお客さま。いろんな人から様々なことを頼まれる中で、幅広い知識が身につけていくのが面白いですし、皆さんにとって頼れる存在になれればと思っています。

林 私は営業なので、一番の目標は売り上げを伸ばすこと！何千万円も動く仕事が取れた時は、本当に嬉しいです。

横井 最初は先輩たちが分析結果についてディスカッションしていても何を言っているのか分からなかったのが、勉強して知識がついて、話し合いに参加できるようになってきたのが嬉しいです。新しい素材や分析方法が次々に出てくるので日々勉強の連続ですが、知識が増えていくのは楽しいです。

田中 施設管理部の仕事は、一般の方々の生活に直結しています。施設の老朽化などによる問題は常に付きものですが、そういった問題をひとつずつクリアして、たくさんの方々の暮らしを支えられていると思うとやりがいを感じます。

林 職場環境の面では、当社は社員が多いので、仕事だけでは話す機会がない人もたくさんいます。サークル活動やイベントなど、社員が交流できる場があったらいいですね。

上森 私は、社員が納得できる人事評価制度を整えることも大事だと思います。



総務部 上森 勇輝
2019年入社。総務部総務課総務係に配属後、主に労務と採用業務に携わっている。

鈴木 当社は部署がたくさんあるので、同じ基準で全員を評価するのがなかなか難しい。評価をする人への教育や給与体系の整備といった準備期間も含め、これから数年かけて整えていく予定です。

吉原 みんなで仕事をする中で、改善点やダメだったことって意見が出やすいんです。でも、誰かを褒める意見や感謝の言葉って、意識しないとなかなか出てこない。私は感謝されると「もっとがんばろう！」と思えるタイプなので、ポジティブな言葉が飛び交う環境が作れたらいいなと思います。

田中 私もまったく同じ意見です。実は、部署内で「公開ありがとうメッセージ」を送り合う期間を設けたことがあって。すぐできる上に、それだけでより気持ちよく仕事ができるようになりました。ぜひ、全社で導入できたらいいなと思います。

鈴木 今日は皆さんから届かない意見が聞けて、本当によかったです。会社は社会の一部。社会の中でどんな価値を提供できるのか、技術や経験、人材といった会社の財産をどう社会に還元していくかがこれからの課題です。これからの10年で、どんな事業を育てていけるのか。そのアイデアが、今日のように社員一人ひとりの提案から生まれる会社であってほしいと思っています。



分析検査部 吉原 亜悠
2013年入社。分析検査部分析検査課無機分析係係長。水質分析に携わりながら、新規事業の立ち上げを行っている。



鈴木 正
株式会社日吉の5代目代表取締役社長。現場経験を経て経営に携わる。